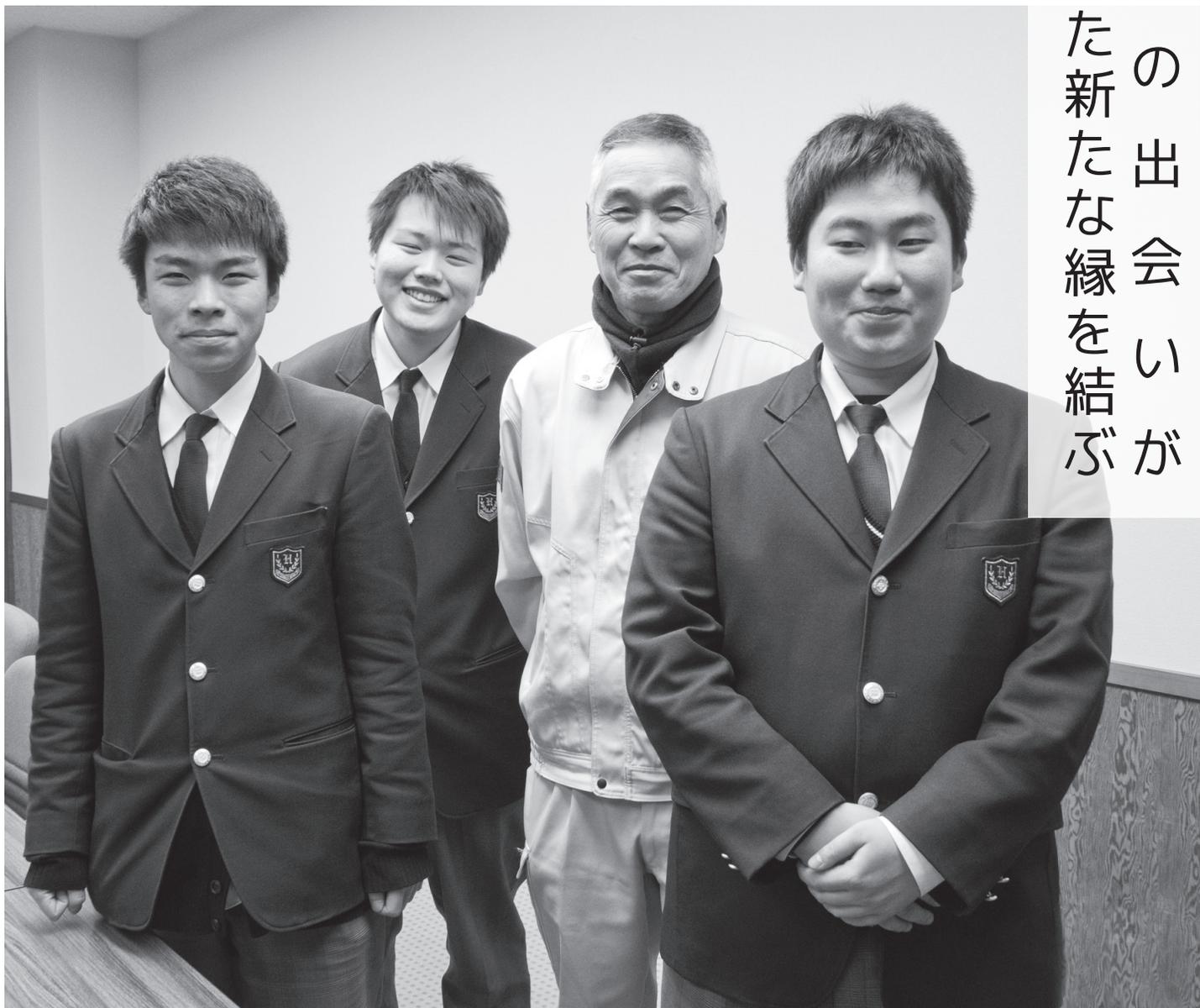


この出会いが  
また新たな縁を結ぶ



日野高校3年

TAKUYA KIRIHARA

桐原拓也

RYUHEI IKUTA

生田龍平

HIROYA NISHIMURA

西村寛也



株式会社 優裁

YOICHI MATSUMOTO

松本洋一

人と人とのつながりは自分の

「幅」を広げ、まちの希望となる

日野高校アグリライフ系列に通う3人は、地域と出会い大きく成長した。一方、松本洋一さん（根雨）は、間近で生徒や子どもたちと地域のつながりを見守ってきた一人。「農」から見る日野。まだまだ捨てたもんじやない。

13人が学ぶアグリライフ系列は、日野高の中でも特に地域の人と触れ合う機会が多いですね。その中で特に印象に残っているものはありますか？

西村 和歌山大学との高大連携交流ですね。

生田 大学生の皆さんと地元農家に2泊3日のホームステイをしながら、農家の抱える課題や困りごとを見つけ、その解決策などを考えていきます。

1和歌山大学との交流をきっかけに、桐原さんを中心として高校生フォーラムを企画したと聞きました。

桐原 2月14日に、「僕たちが考える『日野』創造」というタイトルで行います。大学生の皆さんや地域の中で学んだことを自分たちだけの問題にしたままじゃ駄目だと思ったんです。3年間で学んだことを含め、日野高校のあり方などを地域の皆さんと共有できる機会

を設けてもらいました。

1やらされたものではなく、しかも高校とは関係ない企画。なかなかできることではないですよ。3年間で自分のどこか成長したと思いますか？

桐原 人前で堂々と自分の意見を言うようになったところです。思ってるだけじゃ伝わらないし何も変わらない。西村 そう、自分の考えをみんなに話して行動に移す。自分は行動力が身に付いたと思います。

生田 言われたことだけする。じゃ違うかと考えられるようになりました。

13人ももうすぐ卒業です。高校での経験を卒業後どのように生かしたいですか？

西村 機械のメンテナンスが好きなので、専門学校に進学する予定です。

桐原 カサラファーム（江府町）でハーベスター直したことあったよね。

西村 すごくって喜ばれた。

地域に出て人の役に立つっていいなと思いました。今後もそうなりたいです。

桐原 自分も倉吉市にある農業大学の花きコースに進学します。将来は、花を有効活用した里山活性に携わりたいです。

生田 将来、狩猟免許を取って、日野郡で有害鳥獣駆除にかかわれたらうれしいです。地域の猟師さんとの出会いがきっかけで、ジビエに興味がわいたんです。

「夢」や「幅」が広がる場

1松本さんは、豊かな里山と海の環境保全を図る循環型農業に取り組みながら、子どもたちとの交流も積極的に行っていきます。生徒と地域のかかわりを見てきてどう思いましたか？

松本 人と人がつながるということ、自分の「幅」が広がるということ。それは、生徒に限ったこと

ではなくて、私も境港市の小学校の児童との米づくりが、境港市の小中学校へ食料米を供給するきっかけにもなりましたし。

1出会いってどこでどうつながっているか分かりませんよね。

松本 人それぞれ才能を持っていると思うんです。子どもたちには、その力を将来貸してほしいですね。高校はそんな出会いや希望を与えてくれる場所だと思います。



1地域との連携を考える上で足りないものは何だと思えますか？

松本 地域の人にはもって現場に出てきてほしいですね。出てきてもらえないと話し交流さえできないですから。ただ、ここは高齢

化が進んだ地域。学校や行政には、生徒が地域に出かけられる機会を積極的につくってほしいものです。生徒も教員ももって現場に出かけないと、何を行動すればいいか分からないし、自分の成長につながらないと思いますよ。

1今回3人の話を聞いてみて、一人の農家として、子どもたちに期待することは何ですか？

松本 地域の中で、いろいろなアイデアや技術を身に付け、地域や農業を活性化してほしいですね。今や農協を介さないさまざまな農業ビジネスも発達してきていますが、君たちの時代は希望が满满っていると思います。自分の好きなことに突き進んでほしいです。

1また新たなつながりができましたね。

松本 少子高齢化が進む中、農地の集積など、必ず農業の大型化が進んでいきます。そうなる若い力（担い手）が必要になってくる。君たちには、最新の技術と知識を身に付け、私たちを助けてほしい。期待してるよ！